

ボーリング柱状図

調査名 夕張市上水道第8期拡張事業地質調査

ボーリングNo. 64425449006

事業・工事名

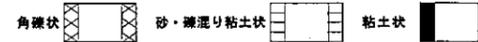
シートNo. 2

ボーリング名	No.5	調査位置	北海道夕張市	北緯	43° 06' 67.0000"
発注機関	夕張市	調査期間	平成22年 5月12日～平成22年 5月15日	東経	141° 96' 68.0000"
調査業者名	株式会社 日水コン	主任技師	原栄一	現代理人	コ定者 松本芳起
電話		ボーリング責任者	高石弘		
孔口標高	E.L. 0.00m	角	180° 上下 90°	方	0°北 0° 270°西 90°東 180°南
総掘進長	12.00m	地盤勾配	水平 0°	使用機	東邦地下工機 D-OLH
		エンジン	ヤンマー NFD-13	ポンプ	東邦地下工機 PA-3

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色	硬軟	割れ目の形状	風変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験		原室位置	掘進状況				
												N値	深度		掘進	送水	送水	送水	
m	m	m	図	分	調	軟	状	化	事	0	20	40	60	分	時	分	分	分	
0.00	0.00	0.00		黒褐色硬質					0.00~3.10m ・レンガ片を含む盛土 ・0.00~0.05m ・腐食土からなる表土 ・0.40~0.55m ・約3cmのチャート円礫を含む ・1.50~1.55m ・径3cmの円礫を含む	(100)					66	0.0	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					48	0.0	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.0	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					250	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					150	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					84	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					111	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					104	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					150	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					121	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					156	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					128	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					66	0.4	0.0	0	0
0.00	0.00	0.00		灰褐色硬質						(100)					166	0.4	0.0	0	0

< 凡例 >

断層・破砕帯・変質帯



コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでボロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの岩片に風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

泥質岩の風化区分

記号	風化の程度
α	非常に新鮮である。
β	新鮮である。層理面、片理面にそって僅かに変色があり割れやすい。
γ	弱風化している。層理面、片理面にそって風化している。
δ	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
ε	強風化している。黄褐色化し、指先で簡単に壊すことができる。

変質区分表

記号	変質区分	変質状況
1	非変質	肉眼的に変質が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に保ち、変質強度が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの。(肉眼で50%以上)
3	中変質	肉眼で変質が通んでいると判断できるが原岩組織を明らかにし、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび塊状変質部。
4	強変質	原岩組織、岩片等が変質岩物で完全に置き換えられ、原岩組織を全く認められないもの。

コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
I		長さが50cm以上の棒状コア。
II		長さが50~15cmの棒状コア。
III		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
IV		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V		主として角礫状のもの。
VI		主として砂状のもの。
VII		主として粘土状のもの。
VIII		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)